



国立大学法人
奈良先端科学技術大学院大学
男女共同参画室

〒630-0192 奈良県生駒市高山町8916-5
(学際融合領域研究棟2号館3階)
TEL: 0743-72-5137/5138
FAX: 0743-72-5139
Email sankaku-jimu@ad.naist.jp
<http://www.naist.jp/gender/>

理系研究者 の一人もモデル集



お仕事も私生活も、自分スタイルで賢く楽しみたいあなたへ。

奈良先端大で
大切にしていること…

Equal Opportunity Diversity Family Responsibility Happy Work, Happy Life

奈良先端科学技術大学院大学
男女共同参画室

室長 村井 眞二

男女共同参画やワークライフバランスの 実現に向けて目指したいこと。 ……	2
情報科学研究科長 西谷 紘一 バイオサイエンス研究科長 真木 壽治 物質創成科学研究科長 谷原 正夫 保健管理センター所長 寶學 英隆	
将来の自分を描けるロールモデル。 ……	4
「ワークもライフも楽しむ。」 井上 美智子 ……	6
「苦手なことにチャレンジする能力。」 米田 友和 ……	8
「おもしろいを見つける。」 浅原 正幸 ……	10
「原点は ただ、いきものが好き。」 塩坂 貞夫 ……	12
「大変だったのは、親の常識を 変えてもらう事。」 森田(寺尾) 美代 ……	14
「優先順位をよく考え合理的に。」 高橋 聡 ……	16
「大切なのは好きであり続ける事。そして、 努力を惜しまない事。」 廣原(小幡) 志保 ……	18
奈良先端大の学生に聞きました!! ……	20
奈良先端大の研究者に聞きました!! ……	22
女性研究者支援モデル育成 先端科学技術を担う女性研究者の育成 ……	24
男女共同参画関連情報 ……	28

男女共同参画やワークライフバランスの実現に向けて目指したいこと。

ワークライフバランスと情報科学研究者

情報科学研究科長 西谷 紘一

科学・技術における国際競争力獲得のためには、多様な人材を活用できる男女共同参画が重要であると言われて久しい。しかし、我が国においては、社会活動での女性の活躍度を示すGEM (Gender Empowerment Measure) は109か国中57位 (国連開発計画;2009)、女性研究者比率は13% (総務省;2008) であり、情報・工学系に至っては、女性研究者比率が2% (男女共同参画学協会連絡会;2007) というのが実態である。この大きな要因は、現役研究者におけるワークライフバランスの欠如ではないかと思われる。情報科学は、自然、環境、社会、文化など人間に関わるあらゆる分野を対象とした基盤科学であり、次世代の情報科学を担う研究者には、人間の本来のあり方を追求するとともに、仕事も家庭も充実させ楽しむことができる研究者であることが強く求められる。本学では「先端科学技術を担う女性研究者の育成」事業として、女性研究員を積極的に登用し支援する。これが刺激となり、男女ともにワークライフバランスがとれ、人間として魅力の溢れた、真に情報科学の発展に貢献できる研究者が育つことを願っている。

ロールモデル集に寄せて

バイオサイエンス研究科長 真木 壽治

私たちの研究科の良きパートナーであるカリフォルニア大学デービス校生物科学部 (UCD CBS) は、私たちにとって研究と教育の両面での「ロールモデル」でもある。これからの生物学をどのように展開していくのか、どんな研究プロジェクトを新しく設定するのか、新しい研究技術をどのように開発していくのか、また、大学院生の力量をどのように伸ばしていくのかについても、彼らが組織としてのしっかりした取り組み、数限りないトライアンドエラーを重ねていることを知れば知るほど、大いに触発され、また私たちの自己変革への勇気を与えてくれる。UCD CBSの全教員数は130名だが、女性教員は34名であり、26%を占める。驚くことに、22名が教授、6名が准教授、残る6名が助教である。教育連携活動をとともに進める中で知り合ったUCD CBSの幹部教員の半数以上は女性であることから、職位が上になるほど女性の割合が高まるようにさえ感じる。ちなみに、昨年8月に就任したUCDの新しい総長は電子工学専攻の女性科学者である。バイオサイエンス研究科の大きな目標の一つは言うまでもなく男女共同参画とワークライフバランスの確立である。UCD CBSは、この意味でも私たちの重要なロールモデルである。男女共同参画は社会、組織、家庭など様々なレベルでの取り組みが必要であるが、先人達の取り組みも含めてロールモデルを知ることが有効な道しるべとなるであろう。今回編集されたロールモデル集は、個人レベルでの取り組みに勇気を与えるものになることを期待したい。

男女共同参画とワークライフバランスの実現に向けて

物質創成科学研究科長 谷原 正夫

男女共同参画とワークライフバランスは、日本の科学技術の今後の発展を考える上で切り離して考えることができない重要な事項です。優れた研究者・技術者の資質を持っているにも関わらず、出産や子育て等のために研究開発の仕事の続けることを断念する女性を、今までに数多く見てきました。これは本人だけでなく、社会や組織にとっても大変大きな損失です。幸い、最近では社会の認識や制度も改善され、家事・育児を男女共同で行うことが普通になりつつあります。しかし、大学などの高等教育・研究機関では業務の特殊性から取組みが遅れており、今後緊急にかつ真剣に取り組まなければならない問題です。例えば、遠隔研究指導システムなど、先端研究分野ならではの男女共同参画とワークライフバランスを実現するためのあらゆる方策を実践して、この分野でのモデルケースとなることもNAISTの果たすべき役割の一つではないかと考えています。

仲間の声を聞き、みんなで前に進もう!

保健管理センター所長 寶學 英隆

医師の世界では、専門医、病院の管理職、大学の教員などに就いている女性の割合は未だ少なく、男女均等化が進んでいるとは言えません。もっとも、この世界は、過重労働に加え、産休・育児休制度の未普及、女性用当直室すらない職場、早朝や時間外のカンファレンスなど、女性医師が望む「妊娠・出産し女性らしく生きることと仕事の両立」を目指すにはほど遠い環境です。それでも近年の若い女性の進出はめざましく、20-30歳代医師における女性の割合は40%に達しようとしています。やりがいのある職場と認識し、頑張ろうとしている若者が増えていることは素晴らしいことで、我々も、彼女らのニーズや悩みを吸い上げ、理解し、環境を整備していかねばなりません。

私は、大阪大学大学院の教員として何人も女性医師・研究者の指導にあたってきました。彼女達は、生活と仕事をいかに両立させるかを常に考え、悩んでいました。そして、医局の壁を越えてお互い相談し、助け合っていました。彼女たち各々が目指したものの、方法論や経験は正しく貴重なもので、一つ一つが後進への大きな財産です。本書の企画は大変すばらしく、必ずや多くの女性研究者の手助けとなるでしょう。仲間の考え方や経験を学び、明日に踏み出してください。

将来の自分を描けるロールモデル

職業意識を持って働く職員の多くの悩みは、将来の自分を思い描ける『ロールモデル』（行動のお手本、模範）が身近に存在しないことです。目指す先輩がいないことでキャリアを高める道筋が見えない、あるいはこれから起こりうる、ワークライフバランス（仕事と家庭の両立）の取り方がわからない等の理由で、自らのスキルアップに積極的になれないのです。自分らしい生き方、仕事と私生活を両立させるバランス、壁にぶつかった時の乗り越え方など、その時々で変わっていくワークライフバランスの取り方、働き続ける為のキャリアアップの方法を、少し先を行く先輩方にお聞きしました。



奈良先端科学技術大学院大学 (NAIST) では、女性研究者が研究を継続できる環境を整備することで、先端科学分野の女性研究者だけでなく、男性研究者も活躍できるよう以下のような取り組みを行っています。

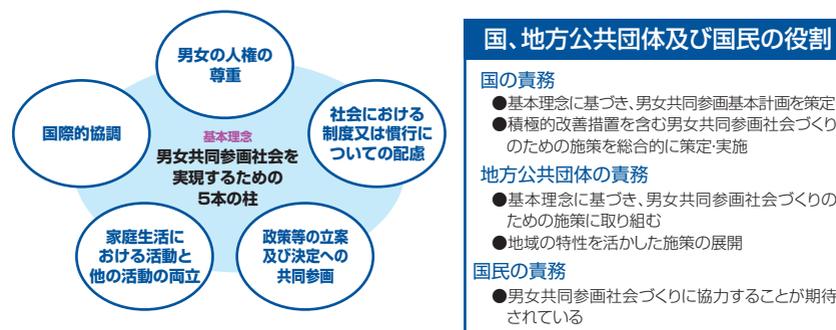
- ① 奈良先端科学技術大学院大学 (NAIST) 型ポジティブアクション
(再任制度の充実・研究支援者の戦略的な配置)
- ② 在宅業務支援システム、及び地域女性研究者ネットワークの構築
- ③ 先端科学技術型ワークライフバランス (WLB) の良い研究環境の構築やシステム改革

男女共同参画社会とは

男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」です。(男女共同参画社会基本法第2条)

男女共同参画社会基本法(平成11年6月23日公布・施行)

基本法では、男女共同参画社会を実現するための5本の柱(基本理念)を掲げています。また、行政(国、地方公共団体)と国民それぞれが果たすべき役割(責務、基本的施策)を定めています。



意欲に応じて

ひとりひとりの豊かな人生

仕事、家庭、地域生活など、多様な活動を自らの希望に沿った形で展開でき、男女がともに夢や希望を実現

誰もが平等と感ずることができ、一人ひとりがいろいろな夢を描いて明るく暮らせる社会でありたいものです。そのためには、女性と男性が、性別にかかわらず個人として尊重され、その個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」を実現することが重要です。しかしながら、性別に基づく固定的な役割分担意識が影響した制度や慣行は依然として存在し、あらゆる分野や場面で男女が平等になっているとはいえない状況にあります。

こうした状況は、それぞれの人が理想とする生き方や社会での活動の可能性を狭めることにもつながるため、家庭、学校、職場、地域などにおいて、男女がお互いを尊重し、平等な立場で共同して社会に貢献できるシステムの構築が求められています。

ワークライフも楽しむ。

進路の決定のきっかけは？

A

今よりはるか昔に高校生だったころ、パーソナルコンピュータがどの家庭にあるという時代ではなく、コンピュータに触るために情報工学科に進学しました。これからはコンピュータ時代だという言葉が先行していて、それならコンピュータを勉強して時代の先端に携わりたいと情報の道を踏み出しました。学部生のときに、情報科学の中でも理論的な研究分野と出会い、理論的に物事を解明していく過程が面白く、研究者としての道を進むきっかけになりました。

修士の学生だったころ、博士課程に進学して研究を極めるか、企業に就職するかで悩んで、まず

A

夢の実現に向かって努力したことは？

は就職を選択しました。3年弱とはいえ企業の研究所を経験した後に出産を機に退社し、再び博士課程に進学しました。博士課程時代は、研究者として一人前になることと育児の両立で忙しい毎日でした。日中は保育園に子どもを預けて大学で研究し、家庭では2児の母親という中で、時間が限られていたからこそ、集中して勉強に励むことができたのかなと思います。

ワーク・ライフ・バランスを実現していく上で、心がけていること(工夫・努力していること)は？

A

ワーク・ライフ・バランスのための工夫や努力と違ってやっていることは特にないですが、家族との会話、PTAなどの地域活動などが、気持ちを自然に切り替えてくれて、仕事のストレスを解消してくれているし、その逆もあります。仕事と家庭の両立は、絶対的な時間が足りなく感じることもありますが、それ以上に人生をたくさん楽しめるプラス面が大きいです。「これは大変」だと思うとどんどん疲れるので、仕事も家庭も積極的に楽しむことは大事かなと思います。

研究生活でのやりがい、楽しみは？

A

コンピュータを上手く使うためのアルゴリズムやLSI(半導体集積回路)の信頼性に関わる研究をしています。新しいアイデアを思いつき、それを実現していくプロセスを楽しんでいます。現在、5年半の計画で行っているプロジェクトでは、LSIをより安全にするために考えているアイデアを実際に実用化することを目指しています。企業との打ち合わせ、学会発表など多忙ではありますが、多くの人と意見を交わし議論できることを楽しんでいます。

研究者を目指す女性へアドバイスをお願いします。

A

研究が向いてるなと思ったら、迷わず研究の道に進みましょう。研究したい人が研究してこそ、科学技術の発展があると思います。海外の学会に行くと、女性研究者もたくさんいます。女性の博士課程への進学率が低く、しかも子持ちだった私でも、学位が取れたし就職もできました。保育所の待機児童など問題が取り沙汰されていますが、10数年前に比べると社会サービスはかなり改善されています。困ったら周りが助けてくれる社会だと信じています。案ずるより産むが易し!



准教授 井上 美智子

情報科学研究科
コンピュータ設計学講座
工学系

経歴

1987年	大阪大学基礎工学部情報工学科卒業
1989年	大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了
1989年	(株)富士通研究所(1991.12まで)
1992年	大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期課程入学
1993年	日本学術振興会特別研究員
1995年	大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期課程修了
1995年	奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助手
2001年	奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教
2007年	奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科准教授

1日のタイムスケジュール



苦手なことにチャレンジする能力。

進路の決定の
きっかけは？

A

学部時代に怪我を負い、長期的なりハビリが必要な時期がありました。その時期がちょうど進路を決定すべき時期と重なり、当時の教授の勧めで、自宅近く

の現在の大学院に進学しました。そこで偶然、現在の研究テーマと出会いました。そのテーマと解へのアプローチの方法が自分の知的探究心を刺激し、知らず知らずのうちにのめり込んでいました。また、当時研究室に在籍していた海外からの研究者との交流でさらに刺激を受け、いつのまにか研究者という進路を考えるようになっていました。

私が学生の時、指導教授から「大学での研究職のポジションは常に募集があるものではない。数少ないチャンスをものにするためには、いつでも学位が取れるように十分な業績を挙げておくこと」というアドバイスを頂きました。このアドバイスをもとに、積極的に国際会議や論文誌へ投稿し、通常修了年月よりも2年早い時期に学位取得に十分な業績を得られていたことが、現在の助教という仕事に就けていることの大きな要因だと思います。

A

夢の実現に向かって
努力したことは？

ワーク・ライフ・バランスを
実現していく上で、心がけて
いること(工夫・努力して
いること)は？

A

家庭での生活と育児は、私にとっての最優先事項です。家族、特に子供との関わりを十分に持つため

に私が心がけていることは、どんなに仕事が忙しくても毎日同じ時間に仕事・研究を強制的にOFFにし、帰宅することです。そのために、職場にいる間は1秒も無駄にしないという気持ちで仕事に取り組んでいます。仕事の時間が足りない時でも、朝夜、休日等の子供が起きている間は仕事をせず、子供の就寝後・起床前の時間を利用するという所でバランスをとっています。

研究生活での
やりがい、楽しみは？

A

現在、私はコンピュータの設計・テストに関する研究に携わっています。研究テーマの性質上、学会は大学だけでなく企業からの研究者も数多く参加しています。大学の研究者だけでなく、企業の研究者との情報交換や共同研究を通じて実際の製品を意識した実用的な研究に携わることが出来るということにやりがいを感じます。また、この分野の研究が盛んな欧米で開催される国際会議で発表することにより、世界中の研究者に自分の顔・名前を知ってもらい、研究討論や共同研究ができるということも楽しみのひとつです。

研究者を目指す後輩へ
アドバイスを
お願いします

A

私が研究者という仕事を目指した時、一番の不安は「自分は研究者としてやっていける能力があるだろうか？」という点でした。就職して7年経った今現在も、この不安は持ち続けています。ただ、7年間研究を続けてきて気付いたことは、研究者に必要な能力は「勉強ができる能力」ではなく、「出来ないことを把握し、それに挑戦する能力」ではないかということです。自分の得意な分野に固執するのではなく、時には苦手と思っている分野に挑戦することで新たな発見があるかもしれません。



助教 米田 友和

情報科学研究科
コンピュータ設計学講座
工学系

経歴

1998年	大阪大学工学部・情報システム工学科卒業
2001年	奈良先端科学技術大学院大学・情報科学研究科・博士前期課程修了
2002年	奈良先端科学技術大学院大学・情報科学研究科・博士後期課程修了
2002年	奈良先端科学技術大学院大学・情報科学研究科・助手(現・助教)

1日の タイムスケジュール

7:00	起床
7:30	朝食
8:30	子供を送る
9:00	出勤・研究
12:30	昼食
13:30	研究
18:30	帰宅・夕食
19:30	子供とお風呂
20:00	子どもと遊ぶ
20:30	子供の寝かせつけ
21:00	研究(自宅にて)
23:00	就寝

おもしろいを見つける。

進路の決定のきっかけは？

A

ロシア船籍の船が多くやってくる港町で生まれたのですが、高校時代にソ連が崩壊してスラブ

の言語・文化に興味を持ち大学に進みました。しかしながら、大学2回生のときに教員より「スラブの言語・文化を研究するのはいいけど食えないよ」と言われて、とりあえず計算機科学の分野を目指しました。修士の間、1年ほど外部の研究機関に出してもらったのですが、そこで楽しそうに計算言語学という分野で研究をしている方々を目の当たりにし、現在の研究分野に進みました。

20代の間に多くの外部

のプロジェクト(大学、公的研究所、ベンチャー企業)に参加し、様々なスタイルの

職業研究者と一緒に仕事をしました。その際に真似をできる部分をできるかぎり、真似をするようにしました。

A

夢の実現に向かって努力したことは？

ワーク・ライフ・バランスを実現していく上で、心がけていること(工夫・努力していること)は？

A

出勤時間と退勤時間を固定してその時間内でできることを注意深く取捨選択しています。生活上

重要なイベントがあれば、仕事量を減らします。博士2年のときには4ヶ月ほど祖父の介護のために大学を離れ、実家で研究をしていました。助教になって、子供が生まれた後数ヶ月は有給休暇をとり、短時間勤務(週24時間労働)に切り替えました。仕事量を減らす際には周りに理解を求めることが重要だと思います。

現在の仕事の(研究生活で)やりがい・楽しみは

A

図書館情報学や自然言語処理の軸として工学的に世の中に役に立つものを開発・整備するというのがありますが、計算言語学の軸として言語学的に難しい現象を計算機で追い込みながら「ことばあそび」を行うという部分を必ず持つようにしています。

研究者を目指す女性へアドバイスをお願いします。

A

まずはおもしろいと思う研究テーマを自分で見つけることだと思います。次にそのテーマの中で職業研究者として何を求められているのかを考えることだと思います。あとは、楽しそうに研究している人を実際に自分の目で見て、できれば一緒に仕事をする機会を持ち、どのように仕事をしているのかを見ることがだと思います。



助教 浅原 正幸

情報科学研究科
自然言語処理学講座

計算言語学

図書館情報学

自然言語処理

経歴

1998年	京都大学 総合人間学部卒業
2001年	奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 博士前期課程修了
2003年	奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 博士後期課程修了
2004年	奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助手(2007年より助教)
2007年	国立国会図書館 非常勤調査員 兼職

1日のタイムスケジュール

7:30	起床
8:00	朝食
9:00	出勤
12:00	昼食のために家に戻る
13:00	大学に戻る
18:00	帰宅
18:30	夕食
19:30	風呂
22:30	就寝

原点はただ、いきものが好き。

進路の決定の
きっかけは？

A

小さい頃から機械いじりや、いきものが大好きで、いろいろな模型や鉱石ラジオを作ったり、壊したりしていました。近所の田圃でカエルをとってきて、友人と解剖をしようと、メスで斬りつけたところ、全部逃

げられて、しばらく家の土間あたりにカエルが住んでいたことがありました。高校生当時、生物学は暗記学問でしたので、それ自体はあまり好きではありませんでした。まして今のように発展するとは思っても見ませんでした。ただいきものが好きだったというだけです。

夢の実現に向かって
努力したことは？

A

大学から大学院に進もうと思ったきっかけは、動物系の分子科学がわかり

かけてきたと感じたからですが、そうした研究を積極的に導入している研究室は日本の中でほとんど無かったと思います。動物の研究は医学部以外では栄養科学しかなく、出身大学とは違う大学院の試験を受けて入りましたが、実際に研究室に入ってみてかなり違うと感じました。2年間はそこでお世話になりましたが、修士を終わるときにもこの違和感に苦しみました。そのときに就職するか、博士課程に進もうかすいぶん悩みましたが、このまま終わってしまったらいずれ後悔するのではないかと考えて、別の大学医学部への博士課程進学をきめました。次の研究室でもとても分子科学とはいえない研究でしたが今に繋がる研究に出会ったのはこのときで、修士のときに諦めてしまわずに良かったと思っています。

研究生活での
やりがい、
楽しみは？

A

研究室の学生と協同して実験を計画・実施、結果を分析して現象の解明を目指すのは、何より楽しい作業です。他の研究者がやらないか、あるいはやれない領域を、自分たちのアイデアで乗り越えていき、それが世界で初めての発見となつて、論文につながっていくのはいつもわくわくする作業です。若者達にはぜひその感覚を味わってほしいと願います。

ワーク・ライフ・バランスを
実現していく上で、心がけて
いることは？(工夫・努力
していること)

A

“ON”と“OFF”の切り替えはあまり上手ではありません。これができるスーパースターは雑誌の中にはいますが、実際には存在しないものだと思っています。ですからそのような真似をしようとは思いません。スーパースターではないと自分に言い聞かせることです。私の友人に“無理をしない、がんばらない”というのを標榜している人がいますが、私もそれに習って、がんばらないようにしています。これは時間的なことでなく、精神的なことを言っているのです。研究者は仕事と趣味の区別がしにくいので、知らないうちにストレスがたまりがちです。特に若い時期は、極限にまで追い込むことがありますので注意が必要です。こういう時には研究室の雰囲気などが重要になります。仕事柄、うつ、痴呆、統合失調症といった神経の病気に興味があり、臨床的な記事も読んだりするので、病気にならないように、あえて自分に掛け声をかけるようにして、上記のことをおこなっています。家族の目には“エーかげん”と映っているようです。つまりエーかげんになるのがいいのです。

研究者を目指す後輩へ
アドバイスを
お願いします

A

やはり冒険心をもつことではないでしょうか？たとえば、ある大学から別の大学へ移るというだけでも、大きなストレスを感じるものですが、学生にはいつも、自分の大学から離れなさいといっております。研究テーマでも同じで、他の研究者がやっていることの、すこし違うことをやっていたら、ストレスも少なく業績もそこそこ出るので、他の研究者と違うことをやろうとすると数年は業績が出ない状態に陥ってしまうと考えがちです。しかしこれは大抵は考えすぎて、自縄自縛となっているのではないのでしょうか。自分のやりたいことに素直になって冒険をやってみようと思えることだと思います。



教授 塩坂 貞夫

バイオサイエンス研究科
細胞生物専攻・細胞構造学講座
生物系

経歴

1975年 3月	東京農工大学卒業 (生物化学専攻)
1975年 4月	名古屋大学大学院農学研究科 入学(栄養化学専攻)
1977年 3月	名古屋大学大学院農学研究科 修了(農学修士)
1977年 4月	大阪大学大学院医学研究科入学 (蛋白質研究所代謝調節学専攻)
1979年 5月	大阪大学大学院退学 (医学部助手採用のため)
1979年 6月	大阪大学医学部助手
1986年 8月	大阪大学医学部助教授
1993年 4月	奈良先端科学技術大学院大学 教授

私の
タイムスケジュール

規則正しくなったのは、ここ5年くらいで、それまでは不規則な生活でした。研究者の生活は不規則なものだという印象があります。時間が自由になる分、自分でしっかりと管理しないと安易に流れてしまいます。時間で縛られるのではなく、業績で縛られるので、精神的負担は大きくなりがちです。50代まで、家庭と業務との区別がほとんど無いような生活を続けていました。

大変だったのは、親の常識を変えてもらう事。

進路の決定の
きっかけは？

A

高校時代の恩師。理科教諭で生物を教えていただいた。進学校の理科教諭としては珍しい授業をする先生で、愛情を持って生き物を語り、強烈な好奇心で植物の研究を続ける楽し

そうな姿が印象に残った。もちろん自分が興味を持ったから進路を決めたのだが、振り返ってみるとどこかで心に残った恩師の姿が後押ししてくれたのかもしれない。

一番の努力は家族の理解と協力を得る事。
「女の子は特に大学にも行かずに就職して、数年後寿退社する」という親の常識を変えてもらう事は、自分が勉強や研究のために努力するよりも難しかった。

A

夢の実現に向かって
努力したことは？

研究生活での
やりがい、
楽しみは？

A

少しずつ分からなかった事を解いていく、そしてその先の問いが生まれるという繰り返りの中、だんだん自分の研究の世界を創っていくこと。



ワーク・ライフ・バランスを
実現していく上で、心がけて
いることは？(工夫・努力
していること)

A

仕事も家事もあまり無理しない。仕事は、優先順位の低いもの、長期出張など家族の犠牲を強いるものはできるだけ陳謝しつつお断りする。家事に関しては、清潔さを保つべきポイントだけ押さえておけば、お家がきれいでもなくとも子供は健康に育つみたいです(たぶん)。そして何よりも、夫を始め周囲の人々の協力に感謝です。

研究者を目指す後輩へ
アドバイスを
お願いします

A

やってみたくて強く思うならかなり頑張っていきましょう。そしてある程度の柔軟性(いいかげんさ)も持ちましょう。全部完璧というわけにはいかないことを認めることも必要なと思います。



准教授 森田(寺尾)美代

バイオサイエンス研究科
形質発現植物学講座

生物系

経歴

1990年	愛媛大学理学部生物学科卒業
1992年	京都大学大学院理学研究科修士課程修了
1995年	京都大学大学院理学研究科博士課程修了
1995年 ~1999年	株式会社HSP研究所 嘱託研究員
1999年 ~2005年	奈良先端科学技術大学院大学 助手
2005年 ~2007年	同 助教授
2007年 ~現在	同 准教授
2008年 ~現在	科学技術振興機構 さきがけ研究員

1日の タイムスケジュール

7:00	起床
7:45	子供登校
8:30	出勤
	大学
18:00	学童保育にお迎え
18:30	買物して帰宅
19:30	洗濯・夕食準備を しながら宿題を見る
~20:30	食事、後片付け
20:30	入浴・子供と遊ぶ
21:30	子供を寝かす
~24:00	仕事・自由時間



優先順位をよく考え合理的に。

進路の決定の
きっかけは？

A

わりと小さいころから、なにか学問を職業としたいと思っていました。どの学問をやるかについては、いろいろと悩んだのですが、物理学を選びました。小さい

ころに本で読んだ量子力学の世界、特に「電子は粒子でもあり波でもある」という不確定性原理や「シュレディンガーの猫」などの観測の問題には、深遠なものがあるように思えたからです。

A

夢の実現に向かって
努力したことは？

研究者になるために、まず大学院に進学しようと考え

ました。当時は、物理学、特に私が目指した理論分野は、人気があり、大学院入試はけっこう難関でした。私は怠け者なので、友人たちと自主ゼミを結成して、名著といわれる教科書をゼミで読んでいくのがうまくいきました。大学院に入ってみると、博士取得後に職がなく、研究生として研究室に残っている人が院生よりも多いくらいで、研究職につくのはなかなか困難であることがわきました。しかし、30才まで続けてだめならば研究職をあきらめよう、自分に残された研究時間を大切にしようと考えて、頑張ってみることにしました。

A

ワーク・ライフ・バランスを
実現していく上で、心がけて
いること(工夫・努力して
いること)は？

これに使うと(下着はたたまない!)時間を30分ぐらいは減らすことができます。(これのアイデアは「食器洗い機は絶対に人生を変える」より。その内容がネットにのっていたので本は買いませんでした。著者の百瀬いづみさんごめんなさい)。ここの30分を使って子供とゆっくり遊んであげれば、より価値のある30分になると思っています。子供と二人でくらしていたときは、このように徹底的に不必要なことを省いていきました。ちなみに、私の妻は、洗濯物を外に干してたたんでいます。私の主張をまったく聞き入れてくれません。

A

研究生活での
やりがい、
楽しみは？

現在は、光物性物理学、特に、光誘起相転移といっ

て、物質に光をあてることにより、物質の性質が劇的に変化する現象を、研究しています。数年前には考えられないような極めて速い変化を光によって観測できるようになるなど、現代の光科学技術の進歩はめざましいものがあります。今まで見る事ができなかった現象をみる事が可能になり、新しい物理が見えてくる展開がありそうな予感がして、わくわくしています。

研究者を目指す後輩へ
アドバイスをお願いします。

A

私たち夫婦は、夫婦とも研究者でかつ夫婦別居です。そのため、2歳からの3年間、長男は父親である私とくらし、母親が週末にやってくるという生活をしていました。研究者としては、たいしてアドバイスがないのですが、父親として積極的に子育てに関わったことは、とてもよかったと思っています。正しいことをやっているという手ごたえもありましたし、子供との絆も強まったと思います。いろいろな人に助けってもらったからです。現在なんとか二人のこどもの子育てと研究職を両立させています。このような生活も案外なんとかなるのではないのでしょうか。



准教授 高橋 聡

物質創成科学研究科
複雑系解析学講座

工学系

経歴

1984年	京都大学理学部卒業
1986年	京都大学大学院理学研究科物理学第一専攻修士課程修了
1989年	京都大学大学院理学研究科物理学第一専攻博士後期課程修了
1989年	日本学術振興会特別研究員
1990年	山口大学教養部講師
1995年	山口大学教養部助教授
1996年	山口大学工学部機能材料工学科助教授
1999年	奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科助教授

1日の
タイムスケジュール

7:30	起床
8:00	子供の朝食
8:30	子供を送る
9:00	出勤・研究
12:30	昼食
13:00	研究
18:00	帰宅・子供のお迎え
19:30	子供の夕食
21:30	子供の寝かしつけ
22:00	夕食
23:00	あとかたづけ・仕事
1:30	就寝

大切なのは好きであり続ける事。そして、努力を惜しまない事。

進路の決定のきっかけは？

A

私は高専の出身ですが、女子学生が多い学科ということで「化学」を選びました。「化学」が好きになったのは、卒業研究を始めてからです。研究は、自分の努力次第で研究が進展していき、今まで分からなかった事を自分の手で解明できます。このことがとても楽しく、今まで続けてきました。特に、大学でライフワークといえる研究テーマに出会うことができ、このテーマをやめたくないという理由でアカデミックの道に進みました。

A

夢の実現に向かって努力したことは？

私は常日頃から「自分で決めた事」、「約束事」は期限内に必ずやり遂げるよう心がけています。一度でもこの信条を曲げると自分に甘くなってしまいそうなので、体調が悪くても徹夜してでもやり遂げる努力をしています。この努力の積み重ねの結果、研究成果を上げることができ、アカデミックの道に進むことができたと思っています。

ワーク・ライフ・バランスを実現していく上で、心がけていること(工夫・努力していること)は？

A

日々ストレスにさらされますが、私の場合、家族や親に長電話したり、研究に全く関係ない本、CDや小物を衝動買いしてストレス発散しています。家庭との両立に関しては、単身赴任の主人が帰ってくる時は、必ず手料理を用意すると決めています。買い物に行く時間もあまりないので、お肉等は買い出しに行ける時に大量買いして小分けにして冷凍してますし、野菜等は大学の売店で買うよう工夫しています。

研究生活でのやりがい、楽しみは？

A

私の研究テーマはガン治療薬の開発とその薬剤の薬効を調べることです。その中で、新しい薬剤を合成できているとわかったとき、またその薬剤を精製し薬として十分な純度にさせることができたときが研究の中で最も楽しく、達成感が得られます。特に、合成した薬剤がガン細胞に対して高い活性があることが分かったときが最も達成感があり、新しい実験を考える活力になっています。

研究者を目指す後輩へアドバイスをお願いします。

A

自分の研究テーマが好きであり続けることが最も大切だと思います。その研究を成功させるための努力を惜しまないことが、研究の成功に繋がると思います。また学会発表のための成果を出すことや発表準備など、どのような場合においても期限が決められています。目標を立てて、それを実現させるために多少無理をしてでも乗りきって、期日までに成果等をあげることができる人が、研究成果を上げることが出来ます。自分に負けないで、日々邁進する研究者になって下さい。



助教 廣原(小幡)志保

物質創成科学研究科
生体適合性物質科学講座
生物有機化学

経歴

1999年	奈良女子大学理学部化学科卒業
2001年	奈良女子大学大学院人間文化研究科 博士前期課程修了
2005年	奈良女子大学大学院人間文化研究科 博士後期課程修了
2004年	大阪府立工業高校等専門学校総合システム学科 物質化学コース 講師
2007年	奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科 博士研究員
2007年 10月	奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科 助教

1日のタイムスケジュール



奈良先端大の 学生に聞きました!!

Q1 文系の学部にはいますが、 受験できますか？

A もちろん受験できます。入試は、面接をメインとしたものでしたので「奈良先端大で何をやりたいか。」という目的意識をもって臨まれたらよいですよ。専攻が違っていても、初年度に集中して行われる授業や演習を通じて基礎的な知識や考え方は身につくと思います。

Q2 大学院生活で悩んだときに どの様にしていますか？

A 誰かに相談するようにしていますね。相談相手は、内容によって研究室の先生や先輩、友人とそれぞれです。「学生なんでも相談室」を利用している友人もいますよ。

Q3 研究室での研究テーマ はどのように選ば よいのでしょうか？

A 研究テーマの根源は 人の生活を豊かに・便利に・安全に あるいは 環境を保全・改善する という目的がほとんどです。自分が興味を持って情熱を燃やせるテーマを見つけましょう。

Q4 奈良先端大の就職支援の 体制はどうですか？

A 先輩が言っていましたが、各研究科ごとに就職支援の先生がいますし、就職セミナー、ガイダンスといった就職支援プログラムもあり、就職・進学についてのサポートは充実しているようですよ。

Q5 奈良先端大の学生宿舎は どの様な感じですか？

A 学生宿舎は全部で619戸あります。入居費も安価で家具も備えつけられていてこれこれ心配なく新生活が始められました。キャンパス内にあるので研究科棟との行き帰りもスムーズですし、24時間高速のインターネットが常時接続されていてしかも無料。研究もはかどりますよ。

奈良先端大の 研究者に聞きました!!

Q1 結婚して子どもがいる 女性も働けますか？

A 結婚していること、育児中ということが不利になりがちですが、研究科ごとに女性研究者の採用・登用する公募システムがあるので、まず応募してみることが大事です。また、学内保育システムや、子連れ出張支援などについても導入に向けて体制を整えられているようです。

Q2 育児中でも 仕事は可能ですか？

A 現在、出産・育児期の女性研究者を対象にアカデミックアシスタント（研究技術員）の配置が実施されていて、5名の方が配属されていて、育児で勤務時間が減少する分カバーしてもらっています。

Q3 女性同士の情報交換の 場はありますか？

A 女性研究者・技術者・女子大学院生間での交流、けいはんな地区の研究機関との女性研究ネットワークが構築されています。また、部局を超えて女性の学内ネットワークを作るためランチミーティングも開催されています。

Q4 妊娠中でも研究は 続けられますか？

A 妊娠中の研究者が放射線・化学薬品を使用する実験指導、実験観測を遠隔で行う遠隔支援システムがすすめられており、近い将来、在宅のまま研究等に携わることができるユビキタス研究教育用ネットワーク環境が整備されます。これから、妊娠・出産を考えている女性にはうれしいシステムですね。

Q5 育児と研究の両立で 悩んでいます

A 育児と研究の両立といったワークライフバランスに関する様々な相談・問い合わせを一元的に受け付けるWLB相談窓口が開設されます。誰でも相談可能なので、利用してみてくださいませんか？

女性研究者支援モデル育成 先端科学技術を担う女性研究者の育成

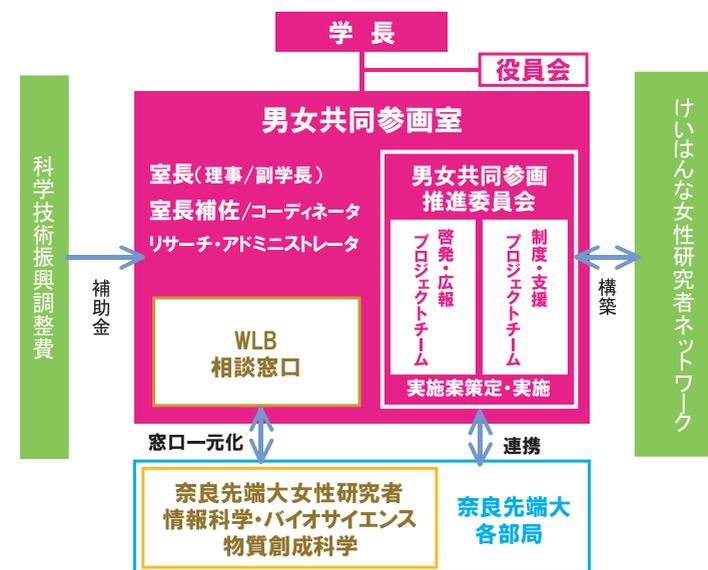
奈良先端科学技術大学院大学では、平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に提案した「先端科学技術を担う女性研究者の育成」(平成21年から3年間)が採択されたのを機に平成21年9月1日に男女共同参画室を設置しました。

事業の趣旨

本事業では、先端科学分野の女性研究者が独創的でイノベーティブな研究成果の創出と国際競争力の向上に貢献できるよう、NAIST型ポジティブアクション、在宅研究教育支援システム、並びに地域(けいはんな)女性研究者ネットワークの導入により、この分野で出産・育児に伴う女性特有の様々な障壁や負荷を軽減し、女性研究者・教員の自主的な教育・研究活動をバックアップし、先端科学技術型ワークライフバランス(WLB)のよい研究環境の構築やシステム改革を行うことを目指しています。

この事業は将来、その対象を、女子大学院生、女性事務職員のみならず、留学生や男性若手研究者/職員への適用も視野に入れています。この活動の結果、多くの女性研究者が十分にその能力を発揮でき、優れた研究成果を挙げ、キャリアアップし、若手研究者とともに後進の女性研究者の育成ができる環境づくりを目指しています。

運営体制



期待される波及効果

けいはんな女性研究者ネットワークの構築は、大学・企業間での情報交換を促し、相互に男女共同参画活動の推進を加速する効果が期待されます。また、主催イベントでの託児室の設置は学外の研究者の支援でもあり、本学の男女共同参画活動の情報発信の場でもあります。子連れ出張やイベントでの託児室等の事業が他大学でも実施されれば、大学間ネットワークが構築でき、出張先等遠隔地でのベビーシッター、託児スペースの手配等相互に協力が可能となり効率的な運用が期待できます。

実施期間終了後の取組

実施期間終了後も各支援を継続し、女性研究者による研究成果の生産性の向上、キャリアアップの加速を支援し、先端科学技術を担うリーダー的な女性研究者を育成、さらに、対象を子育て期にある男性研究者にも広げ、「優れた研究活動と充実した家庭生活とを両立させた一流の研究者」の増加へとつなげます。

「先端科学技術を担う女性研究者の育成」プログラムの 3つの支援項目

全学的な男女共同参画支援 女性研究者支援 意識啓発・情報支援

支援項目

学長のリーダーシップのもと、本学内外に向けて女性研究者が働きやすい環境を整えていきます。

■全学的な男女共同参画支援

●女性研究者採用・登用システム

分野ごとに業績評価制度・評価基準を設け、出産・育児を配慮したシステムづくりを目指しています。また、新規採用女性研究者のインセンティブとして、スタートアップ研究費を配分します。

●曼陀羅atホーム／先端科学型ワークライフバランス

妊娠中の研究者が放射線・化学薬品を使用する実験指導、実験観測を遠隔で行う遠隔実験支援システムを構築し、本格的な在宅勤務の導入を見据え、在宅のまま研究等に携わることができるユビキタス研究教育用ネットワーク環境を整備します。

■女性研究者支援

●NAIST型ポジティブアクション

出産・育児期にある任期付の女性教員の任期更新を可能とする制度の検討、出産・育児期の女性研究者にアカデミックアシスタントの配置を実施しています。さらに、出産・育児中の職務軽減制度の実施や、女性研究者のキャリアアップ支援などを検討していきます。

●プラスα保育

オンデマンド学内保育(通常の保育時間外等)の設置及び、子連れ出張などの支援を検討。また、主催イベントにおける託児サービスを実施します。

■意識啓発・情報支援

●けいはんな女性研究者ネットワークの構築

女性研究者・技術者・女子大学院生間での交流、けいはんな地区の研究機関との女性研究者ネットワークの構築を目指します。

●WLB(ワークライフバランス)相談窓口

育児と研究の両立といったワークライフバランスに関する様々な相談・問い合わせを一元的に受け付ける相談窓口を開設します。

●メンター制度(登録制)

育児・介護などの経験のある研究者をメンター(先輩)として紹介し、同じ研究者の立場からの相談に対応します。

●シンポジウムの開催

学外から講師を招き、学内構成員を対象とした男女共同参画に係るシンポジウムを開催し、学内外での意識啓発を進めていきます。

男女共同参画関連情報

男女共同参画推進に取り組んでいる、団体・学校のデータや、男女共同参画に関連するサイトをご紹介します。

文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業採択機関

採択機関	主な担当部署	HPアドレス
平成18年度		
東京女子医科大学	女性医学研究者支援室	http://www.twmu.ac.jp/SCFMS/
熊本大学	男女共同参画推進室	http://gender.kumamoto-u.ac.jp/
京都大学	女性研究者支援センター	http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/index.php
東京農工大学	女性未来育成機構	http://www.tuat.ac.jp/~dan-jo/center/
日本女子大学	女性研究者マルチキャリアパス支援プロジェクト推進室	http://mcm-www.jwu.ac.jp/~mcpweb/
東北大学	女性研究者育成支援推進室	http://www.morihime.tohoku.ac.jp/
早稲田大学	男女共同参画推進室	http://www.waseda.jp/sankaku/
奈良女子大学	女性研究者共助支援事業本部	http://www.shien-nara-wu.net/
お茶の水女子大学	COSMOS	http://www.cf.ocha.ac.jp/cosmos/
北海道大学	女性研究者支援室	http://freshu.ist.hokudai.ac.jp/
平成19年度		
東京大学	男女共同参画室・男女共同参画オフィス	http://kyodo-sankaku.u-tokyo.ac.jp/
(独)森林総合研究所	男女共同参画室	http://encr.ffpri.affrc.go.jp/
(独)産業技術総合研究所	男女共同参画室	http://unit.aist.go.jp/gender/ci/
九州大学	女性研究者キャリア開発センター	http://sofre.kyushu-u.ac.jp/
大阪大学	男女共同参画推進オフィス	http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/diversity/office
(独)物質・材料研究機構	男女共同参画デザイン室	http://www.nims.go.jp/nims/activity/equality/
名古屋大学	男女共同参画室	http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/
神戸大学	男女共同参画推進室	http://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/
千葉大学	両立支援企画室	http://www.gakuzutsu.chiba-u.jp/
広島大学	男女共同参画推進室	http://www.hiroshima-u.ac.jp/sankaku/
平成20年度		
東京医科歯科大学	女性研究者支援室	http://www.tmd.ac.jp/mri/ang/
東京工業大学	男女共同参画推進センター	http://www.gec.jim.titech.ac.jp/
三重大学	女性研究者支援室	http://pearl.mie-u.ac.jp/
富山大学	男女共同参画推進室	http://www3.u-toyama.ac.jp/kyodoss/
島根大学	男女共同参画推進室	http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/gender/
日本大学	女性研究者支援推進ユニット	http://www.nihon-u.ac.jp/research/careerway/

東海大学	ワークライフバランス推進室	http://www.wlb.u-tokai.ac.jp/
宮崎大学	清花Athenaサポート室	http://www.miyazaki-u.ac.jp/~kiyohana/
慶應義塾大学	ワークライフバランス研究センター	http://www.wlb.keio.ac.jp/project/
津田塾大学	女性研究者支援センター	http://cwr.tsuda.ac.jp/
新潟大学	女性研究者支援室	http://www.niigata-u.ac.jp/joseishien/
静岡大学	男女共同参画推進室	http://www.shizuoka.ac.jp/sankaku/
金沢大学	男女共同参画キャリアデザインラボラトリー	http://cdl.w3.kanazawa-u.ac.jp/
平成21年度		
秋田大学	男女共同参画推進室coloconi	http://www.akita-u.ac.jp/coloconi/
農業・食品産業技術総合研究機構	女性研究者支援室	http://www.naro.affrc.go.jp/kyodo-sankaku/
筑波大学	男女共同参画推進室	http://www.geo-wlb.tsukuba.ac.jp/
農業環境技術研究所	企画戦略室	http://www.niaes.affrc.go.jp/project/niaes_model/
佐賀大学	女性研究者支援室(かささぎサポート・ラボ)	http://www.kasasagilab.saga-u.ac.jp/
長崎大学	男女共同参画推進センター	http://www.cge.nagasaki-u.ac.jp/
東邦大学	男女共同参画推進室	http://www.danjo.toho-u.ac.jp/
東京都市大学	女性研究者支援室	http://www.bme.tcu.ac.jp/sofers/
山形大学	男女共同参画推進室	http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/
奈良先端科学技術大学院大学	男女共同参画室	http://www.naist.jp/gender/
上智大学	女性研究者支援事務局	http://www.erp.sophia.ac.jp/Projects/wrsupport/
岡山大学	男女共同参画室	http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo/
平成22年度		
岩手大学	男女共同参画推進室	http://www.iwate-u.ac.jp/gender/
徳島大学	男女共同参画室	http://ge.tokushima-u.ac.jp/
京都府立医科大学	男女共同参画推進センター	http://www.f.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/
愛媛大学	女性未来育成センター	http://hime.adm.ehime-u.ac.jp/
大阪府立大学	女性研究者支援センター	http://www.opu-genki.jp/
関西学院大学	男女共同参画推進支援室	http://www.kwansei.ac.jp/university/university_m_000155.html
弘前大学	男女共同参画推進室	http://www.hirosaki-u.ac.jp/equality/
岐阜大学	男女共同参画推進室	http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/
大分大学	女性研究者サポート室	http://www.fab.oita-u.ac.jp/
香川大学	男女共同参画推進室	http://www.kagawa-u.ac.jp/sankaku/